

## 夜冷処理がいちご新品种「とちあいか」の生育、収量に及ぼす影響

### 要約

8月10日から夜冷処理の作型における収穫開始日は、頂花房が11月12日、一次腋花房が12月30日、二次腋花房が1月20日であり、無処理に比べて頂花房で8日、一次腋花房で7日、二次腋花房で12日早かった。

収量は、8月10日処理区は無処理区に比べ11月の初期収量は多かったが、総収量はほぼ同程度であった。

### ○ 展示のねらい

育苗における夜冷処理が生育、収量に及ぼす影響について明らかにする。

供試区：8月10日処理開始（普通夜冷育苗：8月上旬～中旬）

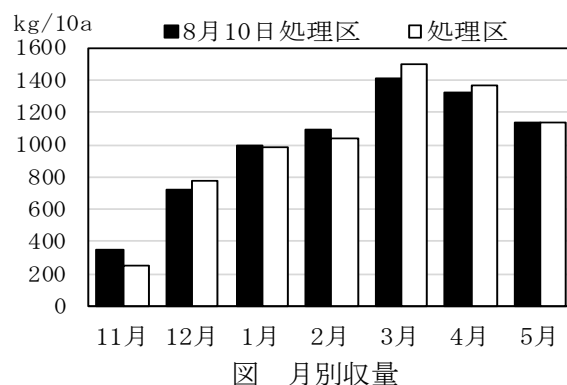
対照区：無処理（セル育苗）

### ○ 主な成果

表 花房別収穫開始日

処理区	頂花房	一次腋花房	二次腋花房
8月10日処理	11/12	12/30	1/20
無処理区	11/20	1/6	2/1

頂花房では8月10日処理区が11月12日で、無処理区が11月20日となり、無処理より8日早かった。一次腋花房では8月10日処理区が12月30日、無処理区が1月6日となり、無処理区より7日早かった。二次腋花房では8月10日処理区が1月20日、無処理区が2月1日となり、無処理区より12日早かった。



11月は8月10日処理区が346 kg/10aで、無処理区に比べ約3割多かったが、12月は無処理区が増え年内収量はほぼ同程度となった。その後は、8月10日処理区と無処理区で大きな違いはなく、各処理とも2～5月は1,000kg/10aを超える高い収量となった。総収量は各処理とも同程度となった。

### ○ 今後の方向性

とちあいかの夜冷処理は、収穫開始時期の前進化による収穫期間の拡大と無処理作型と組み合わせにより作期を分散できることから、経営上メリットがあるが、頂花房での先詰まり果の抑制が課題である。今後は、夜冷処理開始時期や花芽分化後の定植時期の更なる検討が必要である。

一方、とちあいかの栽培を検討する生産者からは、暖候期以降の果実の着色が早いことによる品質の低下や労働力の確保を不安に感じているとの意見が多かった。

今後、とちあいかの普及拡大に向けては、頂花房での障害果実の抑制と暖候期の果実着色に対する対策が重要である。

実施機関：上都賀農業振興事務所経営普及部 実施場所：鹿沼市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315